

## 特別論文

## 断層映像研究会の歴史と役割 (3)

木村 和衛

断層映像研究会特別会員  
福島県立医科大学名誉教授

## 序

当研究会の創立は今年・2001(平成13)年で30年になる。前回は前半・15年間の歩みについて述べた。今回はその後半を前回と同様、研究会誌と学術発表を中心にして本研究会の軌跡をたどる。そして将来に向けて“どうあって欲しいか”を模索する手掛かりとした。例によって筆者の独断と偏見をお許し願いたい。

## 研究会の軌跡(表1、2)

後半・1987(昭和62)年～2000(平成12)年の14年間

1) 研究会の活性化を目指して……

1987年の研究会は第16回であった。

前報で述べた如く、当時研究会を取り巻く環境や創立16年目(1978年は第6、7回と2回開催した)に至って会員数の減少、掲載原稿の不足などの理由で将来への危機感が高まっていた。

そこで前年の総会での申し合わせを実現すべく、まず会の名称を検討した。“断層撮影法研究会”の“撮影法”なる字句は技術偏重の nuance が強いとして“映像”と改名、それに伴って規約・細則を制定、そして

symbol (mark) を考案し、世話人会の議を経て総会で満場一致で承認を受け会の活性化を期した。“映像”とした意味は手段や方法の如何を問わず、人体を断面にしてそれを映像化して臨床に提供することを主体とする研究会である、との志を表現したものであった。その中には形態のみならず機能診断も含む意図があった。本研究会の研究範囲は編集委員長が大出から金子に交代した最初の会誌Vol.15、No.1、p36に具体的に掲載された。会誌の編集については編集委員長が創設より6年間の木村(福島医大)から、9年間の大出(防衛医大)を経て、当年・第16回から金子(浜松医大)に交代した。会誌も検討を加えTomo Graphics欄を新設して、貴重な症例を投稿して頂き会員が教材などに利用すべくスライド等相互交換を自由とした。

また、原著や症例報告は勿論、学術展示発表や写真展示資料は、原則としてそのまま縮小掲載することは従来どうりとした。会誌に巻頭言を依頼掲載して先輩から会員への message とした。

なお、本研究会の規約については発起人である高橋、松川の意向で“規約のない研究会があってもよい



写真1. 第17回研究会(宇部)懇親会場にて  
右端より金子(編集委員長)、赤星、故大出、故竹中の各先生と筆者  
(事務局担当) 研究会名を改称して最初の研究会

表1 断層映像研究会のあゆみ (1987年～2000年)

年	事務局	開催地世話人 (日医放会長)	原著・会誌・巻号・ 演題数・頁	編集委員長	摘要
1987 S.62	福島	第16回東京竹中 (第46回飯尾)	2・15-1・43・46	金子	断層映像研究会と改称 誌名・略称・規約・細則・シンボルマーク制定 日医放理事会了解済。巻頭言掲載開始 会員760名、来年度から会費6千円 Tomo Graphics採録開始 前年度から次々回会長も決める事とした
1988 S.63	◇	第17回宇部中西 (第47回市川)	1・15-2・ 総説3・48	◇	会の名称変更後第1回目の研究会 会員643名 年会費を6千円となる 登録ISSN0914-8663に変更
			3・16-1・ 41・45		
1989 H.元	◇	第18回名古屋佐久間 (第48回鳥塚)	7・16-2・65	◇	演題は全て展示方式とし、そのまま会誌に掲載。 優秀論文に会長賞を出した (5編) 会員653名
			5・16-3・ 40・174		
1990 H.2	◇	第19回熊本高橋 (第49回小塚)	1・17-1・133	◇	特別会員推戴開始。演題はすべて展示。 “本会の在り方を考える” 特別企画開催 会員620名
			7・17-2・ 36・128		
1991 H.3	◇	第20回盛岡柳沢 (第50回阿部)	1・18-1・63	◇	演題はすべて展示・講演もする。 発表は会誌掲載用に所定のオフセット用紙で 申し込む 会員516名
			3・18-2・ 38・106		
1992 H.4	◇	第21回東京安河内 (第51回橋本)	2・19-1・71	◇	編集委員、査読委員増員。 演題はすべて展示。 韓国放射線学会と交流 (5題) 会員545名
			2・19-2・ 24・139		
1993 H.5	浜松	第22回東京古屋 (第52回片山)	1・20-1・131	宮田	事務局を木村定年退職で浜松・金子に移転  合併号。総説4 会員570名
			3・20-2& 21-1・53・100		
1994 H.6	◇	第23回神戸河野 (第53回小野山)	1・21-2・総説6・ 39・92	◇	世話人を増員する 日医生涯教育・画像診断5題実施 会員535名
1995 H.7	◇	第24回大宮町田 (第54回古賀)	3・22-1・ 総説2・37	◇	総会で学会に移行せよ、との発言が強くあったが 当分現行で運営すること、となった 世話人増員 会員525名
			2・22-2 総1、 42・65		
1996 H.8	◇	第25回福岡増田 (第55回高島)	23-1・総1、 症例1・23	◇	研究会の在り方討議。 将来計画委員会＝編集委員とした。 世話人構成見直し。将来像を検討して規約を 見直す、とした 優秀論文に会長賞を出した (3篇) 会員490名
			1・23-2・総1、 技術5・43・71		
1997 H.9	◇	第26回東京多田 (第56回山口)	会誌発行なし 研究発表会は 特講1、教講8、 発表演題37	◇	次年度より編集委員長を宮田から町田に交代

表1 断層映像研究会のあゆみ (1987年～2000年) 続き

年	事務局	開催地世話人 (日医放会長)	原著・会誌・巻号・ 演題数・頁	編集委員長	摘要
1998 H.10	浜松	第27回浜松金子 (第57回河野)	2・24-1・2合併号・ 前回の発表を掲載40	町田	医用画像情報学会 (MII) とジョイント 会員469名
			1・25-1・2合併号・ 総1、発表35、 特別展示1、79	〃	創刊号1-1～24-1・2合併号までの総目次掲載 会員494名
1999 H.11	日大	第28回京都前田 (第58回平松)	3・26-1・総1、症例1、 講座第1、 施設紹介RSNA印象記 57	〃	コンピュータ支援画像診断学会 (CADM)、 日本コンピュータ外科学会(CAS)とジョイント 欧文の投稿規定決まる 会員450名
			3・26-2・特論第1、 講座第2、71	〃	H11、4より本会事務局を浜松金子が 定年退官により日大・田中に移管
			4・26-3・総1、43	〃	会誌25-1・2～26-3までの著者・論文名索引掲載
			1・27-1・総2、 講座第3、52	〃	事務局交代に伴う規約一部改正 米国核医学学会印象記、 役員名簿 会誌を季刊とする (年4冊) 世話人70名程度と改定 会員450名
2000 H.12	〃	第29回熊本高橋 (第59回高橋)	1・27-2・特論第2、 講座第4、講座1・49	〃	機関誌発行の重要性を再確認 会員431名 優秀論文に会長賞を出した (2篇) 会員名簿改訂発行
	1・27-3・総1、 講座第5、抄・欧7、 和15・57		〃	編集後記に曰く・ポケットベルから携帯電話へ、 利器も使い方のマナーを大切に (会場内で傍若無人な会員に・ECRでの体験から)	
	2・27-4・論壇1、 総2、講座第6・45		〃	本会構成員に会員、特別会員の他に功労会員を 設ける。 IT時代に突入し会の使命、重要性益々増大	

ではないか。気楽にやろう”と言うことで“申し合わせ事項”で運営して来たのであったが、親学会・日医放の関連学会や研究会が多く創設されて、それぞれが規約を作っているのに鑑み、更に会費を集めてもいるので本会も規約制定の要を感じ本会の世話人会、総会、更に日医放理事会の承認を得て規約と細則が作られた。

第17回は会の名称変更後、最初の研究会であり一般演題に加えて特別講演、シンポジウム、そして教育講演と盛り沢山の内容で充実した研究会であった。第18回は研究発表はすべて展示形式でジックリ時間をかけて考察できる運営であった。発表演題の中から優秀論文5編に会長賞が贈られた。第19回は会則による特別会員が推戴された。特記すべきは研究会終了後、“本会の在り方を考える”との課題で十分な時間が設定されたことである。討論の中心は本研究会を母体として放射線医学の中の“診断部門”としよう、学会に昇格してどうか、一歩下がって現在の日医放との関係を

保ちながらいかにしてこの研究会を盛んにしようか、などであった。本会の創立の趣旨に“日医放の傘の下で”とあり、この枠内での議論には限界がある、と感じたことであった。第20回は学術発表はすべて展示と講演をする方式がとられた。第21回は教育講演を主体としてそれに関係した演題を配したこと、韓国の放射線学会との交流が実施された。第22回(1993・平成5年)にも教育講演を多く、フィルムクイズが企画された。この年に事務局が創立以来21年間の福島医大・木村の定年退職に伴い浜松医大・金子に移転、また、6年間編集委員長であった浜松金子から愛知医大・宮田に交代した。第23回は日医放の生涯教育とjointする企画で多数の参加者を記録した。

2) 存続か解散かの狭間でゆれ……

結論は“初心に帰ろう”と……

第24回(1995・平成7年)総会で本会の将来について議論が白熱した。即ち、本研究会を“学会に移行しよ

表2 断層映像研究会における特別講演、シンポジウム等の実施状況 (1987~2000年)

1987年 (S62)	第16回・東京・竹中 特別講演；1) 肺の画像診断における断層法の意義・曾根 2) ポジトロンCTの現状と将来・田中 シンポジウム；脳を載ってみる・5題 肝を載ってみる・5題
1988年 (S63)	第17回・宇部・中西 特別講演；CT発展の歴史をかえりみて・玉木 特別講演；円軌道デジタルX線トモグラフィー・岩田 特別講演；放射線治療計画への断層映像の応用・小野 シンポジウム；肺門・縦隔の画像診断・6題 教育講演；SPECTの臨床応用—呼吸器疾患を中心に—・1題
1989 (H元)	第18回・名古屋・佐久間 特別講演；超音波による血流動態・Kurjak (ユーゴスラビヤ) シンポジウム；断層像の効能 1) 中枢神経系・3題 2) 断層映像とPACS・4題 3) 肝臓癌・3題 4) 肺癌・5題
1990年 (H2)	第19回・熊本・高橋 特別講演；CT and MR evaluation of pulmonary vascular disease・G.Gamsu(UCSF) シンポジウム；1) 骨盤内臓器の画像診断・3題 2) 骨・軟骨の画像診断・3題 3) 中枢神経系の画像診断・3題 4) 画像診断による肺癌のstaging・3題 5) 肝疾患の画像診断・3題 6) び慢性肺疾患におけるMRIとCTの役割・3題 症例カンファランス；9題
1991年 (H3)	第20回・盛岡・柳沢 特別講演；断層映像法の歴史と今後の展望・木村 シンポジウム；現在の画像診断における断層画像のdecision tree 1) 骨・軟部・4題 2) 肺腫瘍・4題 3) 腹部実質臓器・4題 教育講演；3題
1992年 (H4)	第21回・東京・安河内 会長講演；診療記録と検索について・安河内 特別講演；脳磁図の基礎と臨床応用・金子&高倉 特別講演；映画の医者と現実の医者・水川 教育講演；韓国より5題、日本から21題
1993年 (H5)	第22回・東京・古屋 招待講演；CT in Pulmonary Tuberculosis Jung-Gilm(Korea) 特別講演；頭頸部断層解剖学序論・多田 特別講演；二足のわらじの人生・なだいなだ 教育講演；23題 フィルムクイズ
1994年 (H6)	第23回・神戸・河野 特別講演；IVRと画像診断・山田 特別講演；S P r i n g 8の診断への展望・河野 特別企画；高橋五月のゴルフ 日医生涯教育の一環とする画像診断・5題 外科医が望む画像情報・2題 教育講演；10題 Film Interpretation・5題
1995年 (H7)	第24回・大宮・町田 特別講演；宇宙医学・谷島 シンポジウム；三次元画像の構築法と診断支援・6題 教育講演；29題

表2 断層映像研究会における特別講演、シンポジウム等の実施状況（1987～2000年）続き

1996年 (H8)	第25回・福岡・増田 特別講演；CT of Airway Disease・Godwin(U.S.A.) シンポジウム；機能画像 脳と心・4題 教育講演；16題 Workin Progress・メーカー6社 フィルムリーディング8題
1997年 (H9)	第26回・東京・多田 特別講演；Elephant Manに関する放射線医学的な考察・Chan(London) 教育講演；8題 フィルムリーディング8題
1998年 (H10)	第27回・浜松・金子 特別講演；その1 MRI of the Liver その2 MRI of the Abdomen Semelka (U.S.A.) 特別展示；大腿骨頭壊死によるIVR前後の血流・王ら（天津医大） 教育講演；10題 ホームグラウンドレクチャー；4題 フィルムリーディング；8題
1999年 (H11)	第28回・京都・前田 特別講演；放射光の医学応用・盛 特別講演；21世紀の画像診断-機能・代謝画像から分子画像へ・西村 シンポジウム；コンピュータが医療を変える-次世代の映像診断から治療まで-；8題 教育講演；6題 フィルムリーディング；8題
2000年 (H12)	第29回・熊本・高橋 メインテーマ；Multidetector Helical CT；基礎から臨床まで、MDHCTのすべて 各装置の特長（4題）、 技術的進歩（5題） 血管（2題） 中枢神経、頭頸部（5題） 胸部（5題） 泌尿生殖器（2題） 腹部・消化器（5題） 骨軟部（2題） シンポジウム（6題）； *片山（藤田保健大）、山下（熊本大） *欧・米より；S.Wildermuth（スイス） B.Marincek（スイス） L. N. Tanenbaum（アメリカ） B.Hamm（ドイツ） M.Reiser（ドイツ）

う”、いや“本会の使命は終わったのでは”、いや、いや  
“人体の形態的、機能的な側面の解明にあらゆる  
modalityを駆使・総合し、更にその開発の為に本会は  
意義あり” などなど。結論として日医放・親学会との関  
係もふまえて“研究会の会長を引き受ける人がいるう  
ちは研究会の内容・運営を工夫しながら、会誌を立派  
にする努力をしつつ存続すること”、に落ち着いた。第25  
回には発表された優秀論文に会長賞がくださった(3編)。  
また編集委員会が将来計画委員会を兼ねることに総会  
で承認された。第26回は盛大な研究会であったがこの  
年の会誌は発刊されなかった。第27回の研究会は  
医用画像情報学会(MII)とjointした。また、編集委員  
長が5年間その任にあった宮田から町田(埼玉医大)に  
交代した。



写真2. 第29回研究会（熊本）会場入口国際会館は立派であった



写真3. 第29回研究会（熊本）  
会場風景 常時80%の参加者で盛会



写真4. 第29回研究会（熊本）  
シンポジウム後の演者らと討論風景 国際語の聞く、  
話すの必需性は益々大を痛感

第28回はコンピュータ支援画像診断学会(CADM)と日本コンピュータ外科学会(CAS)とのjointで開催された。また、欧文の投稿規定が定められた。この年、浜松医大・金子の定年退官に伴い6年間、同大に在った事務局が日大・田中に移転した。規約が一部改定され世話人が20名程度から70名程度と、また会誌を平成11年から季刊とすることになった。第29回(写真2、3、4、5)は本研究会の設立準備から29年目であるが、あと1ヵ月半後には西暦2001年・21世紀幕開けの節目が来る。それにふさわしく、この回の研究会はCTの実技・方法として12年前の本研究会(第18回・名古屋)で世界に先駆け発表され、今や一般化しているヘリカルCT、更にこれに同時多層撮影の概念を導入して発展したマルチデテクターヘリカルCTの基礎から臨床までの多数の外国研究者を招き、現段階に於ける全ての知見を終結した画期的な企画で運営された記念すべき研究会が行われた。

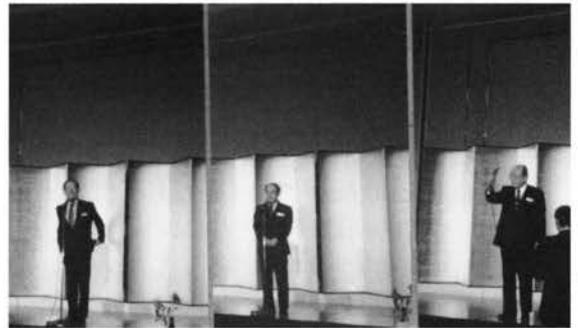


写真5. 第29回研究会（熊本）  
懇親会開会 左端・高橋（大会長）、中央・田中（事務局  
局長）教授のご挨拶と松浦特別会員の乾杯のご発声

ダウンロードされた論文は私的利用のみが許諾されています。公衆への再配布については下記をご覧ください。

### 複写をご希望の方へ

断層映像研究会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター（(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体）と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません（社外頒布目的の複写については、許諾が必要です）。

権利委託先 一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾（著作物の引用、転載、翻訳等）に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。

直接、断層映像研究会へお問い合わせください

Reprographic Reproduction outside Japan

One of the following procedures is required to copy this work.

1. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has concluded a bilateral agreement with an RRO (Reproduction Rights Organisation), please apply for the license to the RRO.

Please visit the following URL for the countries and regions in which JAACC has concluded bilateral agreements.

<http://www.jaacc.org/>

2. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has no bilateral agreement, please apply for the license to JAACC.

For the license for citation, reprint, and/or translation, etc., please contact the right holder directly.

JAACC (Japan Academic Association for Copyright Clearance) is an official member RRO of the IFRRO (International Federation of Reproduction Rights Organisations).

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail info@jaacc.jp Fax: +81-33475-5619